

花腐菌核病の子実体Ⅱ型が確認されました。まもなく孢子飛散時期となるので、着蕾期に達した品種では防除をしましょう。

現在の状況

- 1 9月18日、八幡平市安代で子実体Ⅱ型（図1）が確認された。
- 2 1か月予報（仙台管区気象台 9月19日発表）では、降水量は平年並か多い見込みであり、子実体の生育は順調に進むと考えられる。

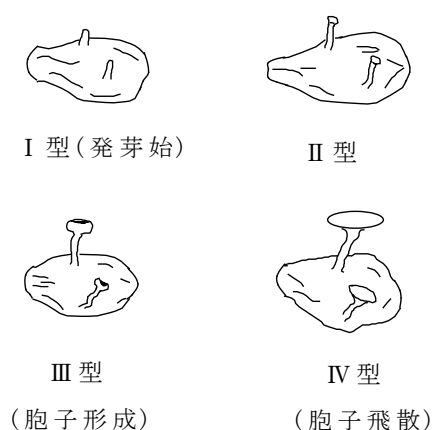


図1 花腐菌核病の子実体生育段階



図2 子実体 (Ⅲ型)

防除対策

- 1 子実体の生育状況から、まもなく孢子飛散（防除開始）時期に達すると予想される。
- 2 薬剤散布は7～10日間隔で定期的に行う。降雨が続く場合には散布間隔を短くして予防散布に努める。
- 3 収穫終了後の残花にも感染して翌年の伝染源となるので、花が咲いているうちは薬剤散布を行う。被害茎は速やかに折り取り、花蕾を地面に落とさないよう注意して圃場外に持ち出し、処分する。

【利用上の注意】

- ・農薬は、使用前に必ずラベルを確認し、使用者が責任を持って使用しましょう。
- ・農薬使用の際は（1）使用基準の遵守（2）飛散防止（3）防除実績の記帳を徹底しましょう。

【情報のお問い合わせは病害虫防除所まで】 TEL 0197(68)4427 FAX 0197(68)4316

☆この情報は、いわてアグリベンチャーネットでもご覧いただけます。

アドレス <https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/boujo/index.html>

